

高松凌雲記念かき初め大会表彰式

小郡市と北野町の小学生を対象とした高松凌雲かき初め大会が、3月3日から8日にかけて生涯学習センターで開催されました。6回目を迎えた今回の作品は1,194点にものぼり、年々盛んになってきています。3月8日には小郡市や久留米市の各団体の代表者が参列し、受賞者の表彰式が行われました。各賞の結果は次のとおりです。市内分のみ・敬称略



▲表彰式の様子

硬筆の部

国際ソロプチミスト小郡会長賞 立花圭悠樹(東明館小1年)
 おごおり女性協議会長賞 柳 一菜(三国小1年)
 みい青年会議所理事長賞 田中知奈(小郡小2年)
 小郡市会議議長賞 南島芽郁(大原小2年)
 高松凌雲顕彰会長賞 立山哲資(のぞみが丘小3年)

毛筆の部

小郡市郷土史研究会賞 玉田麻未(三国小4年)
 小郡三井歯科医師会長賞 池田紗里菜(東明館小4年)
 小郡市青少年育成市民会議会長賞 原 茉莉子(小郡小5年)
 小郡市教育長賞 松尾美穂(三国小6年)
 小郡市長賞 岩瀬 香(のぞみが丘小6年)

まちの話題

感謝の気持ちを込めてもちつき

2月28日、三井高等学校で生徒、先生、保護者、地域の皆さんなど約100人が参加して、もちつきが行われました。



▲おいしいおもちがつけました

初めてもちをついた参加者も多く、「初めてつきましたが、楽しかったです。おいしくできたと思います。」と話していました。

この初めての取り組みに携わったPTAの柿原康夫会長は「卒業生のために何かできないかと検討しまして、お祝いということでみんなで紅白のもちをついて贈ろうということになりました。地域の方など様々な方が集まり交流もできますので、できれば今後も続けていきたい。」と話していました。この日紅白のもち約800個が作られ、できあがったもちは翌日の卒業式で卒業生やお世話になった地域の皆さんなどに配られました。

「教育不平等」を乗り越えるために

3月7日、生涯学習センターで、小郡・立石・三国校区人権推合同研修会が開催され、外川正明さん(京都教育大学准教授)による「『教育不

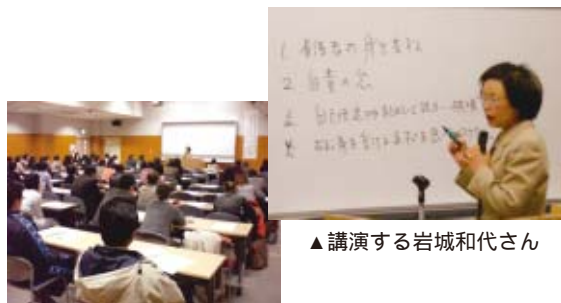


▲外川正明さんによる講演の様子

平等』を乗り越えるために～同和教育が大切にしてきたこと～」というテーマで講演が行われました。

講演は、「格差社会の進行が、子どもたちに教育格差として表れてきている。教育の基本は最も困難な条件にある子どもに焦点をあてた取り組みを行うことが大事であり、そのことが全ての子どもの学力を保障することへとつながっていく。また、教育は学校だけで行うものではなく、学校と地域と家庭が連携して子どもを育てていくこと、すなわち『共育』『協育』が大事である。」という内容で、参加者も熱心に聞き入っていました。

高齢者虐待防止対策研究会特別講演



▲講演する岩城和代さん

2月17日(火)、高齢者虐待防止対策研究会特別講演が、あすてらすで開催されました(参加者87名)。医療、介護、障害施設等で勤務する専門職で昨年12月に始まったこの研究会(70名)の開催を、今回は特別講演ということで一般まで開放して開催されました。

特別講演では弁護士の方城和代さんを講師に「高齢者虐待防止法と権利擁護」というテーマで、権利を擁護するということや、高齢者虐待防止法の内容について在宅や施設で起きる虐待に分けて、その条文がしめす内容について講演され、多くの参加者も熱心にメモをとりながら聞き入っていました。